

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

桜餅の道明寺粉のてぼぼは雨過ぎ去りし路地のかかやき 武蔵野市 谷口 菜月

汗襦をそれがごろであるようにわたしてくれて手につる熱 東京 奥山いずみ

の熱とわかっていてのあえての恋歌だ。 さざんかは薄雪に紅をちりばめる亡くしたものの無限の大きさ 名古屋市 田中 靖人

蜘蛛の糸数時間掛け張ると知りおつおつ崩す朝の軒下に 京都市 根来 滋

飛ぶ鳥はあとをこした 感涙の別れの後に押し入れのゴミ 豊後大野市 菜 瑞 菜

海を越え口論を終へはふはふと娘ふたりと食む明石焼き 枚方市 坊 真由美

鏡 国民を見ない政治家現実を見ない国民映せる 熊本市 貴田 雄介

多数派が正義であるとい概に言える訳なし歴史が語る 堺市 門哉 慧遙

彼は何を思ひて生きてゆくのだらう無期微役の永きじかんを 葛城市 上島 博

米川千嘉子 選

友は今すべて忘れぬ大和文華館に種を拾いし蠟梅開く 京都市 高橋よしこ

の名の美しさもロウバイの香りも、思い出を共有できない友への悲しみに響き合う。 児童会会長選さえ人気とは一線面す方法探った 駒ヶ根市 市山 利也

夫を小学生でも考えた。それなのに……。 非通知の着信にいつか出てしまふ雪に約束ふたつ隣りて 東京 遠野 鈴

満席の電車ですと隠したりヘルプマークを靴の中に 大阪市 小熊 光子

ふくらんだ太平洋は怖いねと鷹の眼をして母ひとりとごう 東京 浅倉 修

チケットはないけどそこに推しが居る 空このぼり旗写して帰る 大阪市 鈴木 雅子

台所の鍋に磨いてくれた跡母のやさしい形見と思ふ 仙台市 石川 初子

母の言う淋しいはみつもまないの意で、みつもまない熱帯魚のゆらゆら 長岡市 三月 とあ

カルガモの親子のようによちよちと除雪車のとまじり続く波瀾 会津若松市 ともりゆめ

たましいのような積もる雪 我慢は惨めに思えるけれど 町田市 郁羽 凧

加藤 治郎 選

ららららと蠟旋の手摺を降りてくる超絶技巧のきみのかなしみ 垂水市 岩元 秀人

からせんと導く。手すりを降りてくる姿も危うい。きみの存在が超絶技巧なのである。 みかんとか買いいに行こうか充電が92パーくらなくなったら 大野城市 野分 のわ

抑えきれず会議室を出る夢醒めてひととき薄いとーストの焦げ 神戸市 浅田 拓史

千切れ雲が東の空にだんだんと集まってゆく千切れたままで 福岡市 藤田 美香

ぬばたまの風の暗き氷箱にひとり眠るものがたりあり 京都市 土 玉

砂時計のくびれの部分で逢いましよう望むしそうな春のひかりに 安城市 唐澤 うに

朝きみが見ていた丸い雲 風で三つになってもうかえない 大津市 世田 夏雪

遠くから眺めるだけで泣けてきてふくらみすぎた君への想い 岐阜市 山上 秋恵

もついい言いい訳は聞き飽きたからそろそろ私は風になるよ 四万十市 佐竹 紫田

ルバーフの苦味をどぼすシヤムになるころにはきつと忘れてみせる 埼玉 玖嶋さくら

水原 紫苑 選

銅像の胸はけるほど撫でられて血の通わない孤独の静か 川崎市 二宮 珊瑚

幻覚をナイフで刻みつけしならむ板壁にぎつしりキリル文字 甲府市 村田 一広

幸福な王子のなみだも透明か問えないままに つぼめは死んだ 東京 境 千尋

暖炉とは不動明王もえさかる炎はまるで抗う様だ 川越市 新井 昌広

今日、僕は仕事を辞めたこれからは信鳥待ちのガムになりたい 東京 結羽 成

永遠はないが光はあると言つスピーパノヴァの音なき声が 東京 石川 真琴

空港はまるで欠伸をするように目覚めて僕は孤独を満たす 名古屋市 よだ か

うなずいて顔をこぼれ落ちてゆくプリズムたちの銀の複眼 大阪 中村 杏

冬薔薇の日々はとけゆくまきげんよつほごんにちはにもきよならにも 横浜 永水 キヌ

友則のらむに初雪落ちしとき時空を超えて彼に焦がれき 古賀市 砂山ふらり

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。

おわびします

16日の毎日歌壇・水原紫苑選の入選者で、「中村照明」とあるのは「中林照明」さんの誤りでした。おわびして訂正します。



こちらから投稿できます